

論理構築力を養成する	履修年次	1	
	単位	2	
水島 章広	配当期	後	
	授業方法	演習/対面	
授業の内容			
<p>[授業の概要]</p> <p>大学の学びのなかでは考えることが多い。ではあらためて「考える」ということとは、どんなことなのか。そもそも自分の考えたことは筋道を通っているものか、そして他人を納得させられる客観性に富む考えとは一体どんなことなのか。</p> <p>本科目で根拠としている学問分野は論理学であり、目前にあるいくつかの事象を比較し、そしてこれらの事象に対して分類と体系化をおこなって分析まですすめてゆく。この過程で必須となる思考方法が演繹法と帰納法であり、最初にその思考方法を知ってから学びを深めてゆく。</p> <p>このように書くと難解な事項ばかりが続くようであるが、実際には身の回りにおこりそうな事象を使って授業をすすめる。またひとりで考えていても中々結果が出てこないことがあるが複数人で考えれば客観性の高い結果が出やすくなることを体験する。</p> <p>ただし本科目で学ぼうとしていることは思考の結果ではなく思考の過程である。突飛子もなく出た発想や他人が驚くアイデアを出すことではなく、誰がみても納得できる理詰めの結論の導き方を学んでゆく。</p> <p>大学のさまざまな学びのなかで、そして就職活動で、更に社会に出てから、論理的に筋道をたてて考えてゆく論理構築力は必須であり、本科目はこの能力養成の導入口として位置づけている。</p>			
この科目の到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・論理思考について理解し言語で表現できる。 ・演繹法や帰納法そして比較・分類・分析の思考過程を実践できる。 ・ものごとに対して関わるさまざまな立場のひとたちの思考を類推することができる。 			
成績評価の方法			
毎回の授業の理解度を授業外学習で確かめ、3回の課題で单元ごとの理解度と応用力を確かめる。更に定期試験では学んだ内容を統合させて活用できるかを評価する。いずれも論理性を評価観点とする。			
週	授業項目	週	授業項目
1	論理構築できる学生になるための一歩	8	事象の重なりその2事象の重なり否定
2	演繹法と帰納法	9	論理で比較する
3	演繹法の演習	10	論理で分類する
4	正しい演繹法	11	論理の体系化と相関
5	事象の否定その1否定の正体	12	事象の分析
6	事象の否定その2否定が成立する条件	13	論理構築の実践1「視座」と「視点」を用い思考する
7	事象の重なりその1「かつ」と「または」の使い分け	14	論理構築の実践2「価値観」を用い思考する